

地方公共団体における人権教育事業の実施状況に関する調査研究
事例調査票

様式2

(財)人権教育啓発推進センター

実施自治体・担当課（連絡先）	神戸市教育委員会社会教育部東垂水公民館 電話： 078-753-5025
----------------	---

1. 概要

事業名	人権啓発学習会
主催(共催)	神戸市教育委員会社会教育部東垂水公民館
実施年月日・実績等 *回数・参加人数・作成部数等	実施年月日:平成16年8月30日(月)~9月3日(金) 午前/午後/夜間の計6回 参加人数:延べ74名。
開催場所	神戸市立東垂水公民館第1会議室他
対象	登録グループ生及び地域住民
人権課題	人権全般、特に障害者・高齢者・子ども・外国人

2. 事業内容

(1)事業の目的 ・地域の中で身近な人権問題を考察することを目的として実施した。まちづくりの中で、「ピクトサイン」を使って誰にでも理解してもらえるような表記をどういう場所で行っているのか、ユニバーサルデザインを意識したまちづくり、地域づくりを地域や神戸市内、他の政令指定都市のデジカメ画像を見ながら考えていった。地域住民の心の中に「人権」＝「同和問題」と連想する方(特に高齢者)が多く、現代的な話題を取り上げ、地域住民の方にも参加しやすいテーマ設定にした。

(2)事業概要 ・毎日開講、時間帯を午前・午後・夜間と設定し、都合のいい日・時間帯に出席してもらえるようにした。 ・32登録グループがあるが、人権課題に対して強制的に出席してもらうことに抵抗があったので、各グループからの責任出席という形はとらなかった。
(2)-1 連携状況
(2)-2 特色・工夫した点(広報の方法も含む) ・講座・講義方式に偏らないよう、パワーポイントを使って、視覚に訴えるようにした。デジカメで地域・市内各所及び東京や京都・大阪等他都市の資料をたくさん集めて映像で示すと理解しやすいようであった。 ・秋の実施の「人権啓発学習会」と12月実施の「人権啓発講演会」「人権パネル展」を3本柱と考え、春・秋の人権関係講座及び子ども向け(保護者参加可)のサマースクール・ウィンタースクールと公民館で1年中、何らかの人権課題に対して取り組んでいるという姿勢をアピールしたい。
(3)参加者の反応・事業の反響等 ・映像を見ながらの解説は理解しやすかったと好評でした。 ・地域を見直す、活気あるまちづくりのヒントを得たような気がするという声があがった。 ・参加者が誰もいないところで、「同和問題じゃなくてよかった」というお年寄りの方がおられた。
(3)-1 反省点・今後の課題 ・やはり、映像や視覚に訴える資料・材料は反応がいいと思った。 ・ストーリー性のある物語ではないので、パワーポイントを使ってタイミングよく解説や補足説明ができたのがよかった。参加者の反応を見ながら学習会を進行できる。 ・「人権」＝「同和問題」＝「暗い」というイメージの払拭。現代的課題に対してどうとりにくんでいくか。 ・新しい人権課題(消費者、高齢者、環境、情報等)に対してどう取り組んでいくか。 ・学習会の持ち方、プレゼンテーションの研究、わかりやすい学習の持ち方の研究。